T-4

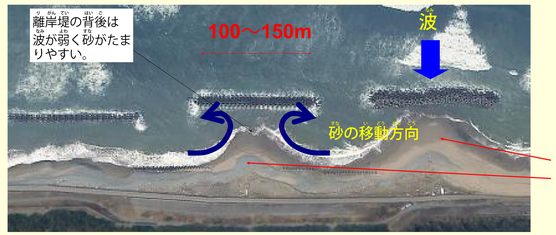
失われた砂浜がよみがえったＣＣＺ

広い砂浜が広がる徳光ＣＣＺですが、江戸時代には幅約750mあった広大な砂浜が昭和44年ごろには僅か40mにまで減少してしまいました。このため当時の建設省（現在の国土交通省）の直轄工事として昭和45年から離岸堤の整備を行い、現在では明治36年当時とほぼ同じ150mまで砂浜が回復しました。

←離岸堤が整備される前の海岸の様子

海岸事業により砂浜が回復するしくみ。

離岸堤を海におくとその背後に循環流が発生し内側に砂がたまります。これを「トンボロ」(とんぼろ)といいます。トンボロができると、けずれた砂浜がもとにもどり海岸の侵食を防ぐことができます。

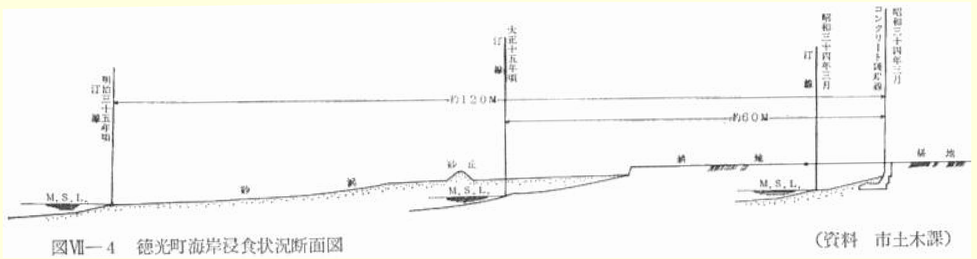


古い記録からみた海岸の様子

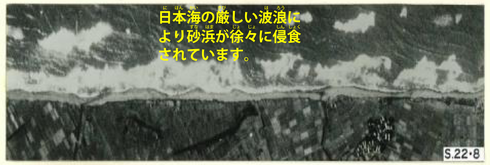
●相河新村（現在の白山市相川新町）の中心庄屋の大浦家の古文書には、享保１３年（１７２８年）には「海浜までの距離は６町５３間半 (751.74m) 」という記録があります。

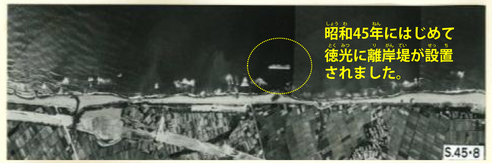
●松任市史には、「かつて相河浦として賑わった砂丘地には、明治中ごろまで大きな石炭倉庫が建ち並び、また、当時近村小学校の連合運動会がこの砂丘で開催された。」と当時の砂浜の広さが伺えます。

●昭和３４年当時の町土木課資料によると、相川新地内の汀線は、明治２５年より３２０m、大正１５年ごろより８０m後退している。また、浜相川地内では明治３５年 ごろより７０m、大正１５年ごろより５０m後退した。



図Ⅶ—4　徳光町海岸浸食状況断面図　（資料　市土木課）





徳光ＣＣＺ：浜辺の景観と調和を図りながら、人々の交流空間として徳光C.C.Zが整備されています。近くには北陸自動車道の徳光PAがあり、高速道路から海浜公園を利用できます。（昭和62年～平成15年にかけて整備）

※C.C.Z. 整備計画： Costal(海岸)、Comunity(コミュニティ)、Zone(ゾーン)の略で、海岸、背後地の公園などの施設を結びつけて総合的なコミュニティーゾーンを創造し、地域の人々が、気軽に海と親しみ集い憩う海浜空間を作り出そうというものです。

○-1 景観ポイント　○-1 学びポイント

白山手取川ジオパーク Hakusan Tedorigawa Geopark

GEOPARKS JAPAN 日本ジオパーク

国土交通省　北陸地方整備局　金沢 河川国道 事務所